

い 小春日和 はるびも

2020年
第49号

ご自由にお持ち帰りください



治療中の働き方について一緒に考えましょう

仕事と治療の両立支援窓口のご紹介



例えば、次のようなご相談をお受けいたします。

- Q. 職場にはなんて報告したらいい？
- Q. 休暇や休職はどうしたらいい？
- Q. 治療をしながら仕事を続けられる？
- Q. 治療中でも就職できる？
- Q. 面接で病気のことをどこまで話したらいい？



仕事を辞める前に、まずご相談ください。当院は、患者さんの働きたい気持ちをサポートします。治療中の働き方について、一緒に考えましょう。



▲治療しながら仕事を続けられると説明している医師



▲ソーシャルワーカーとの面談の様子

【問い合わせ先】 診療棟1階 総合患者相談窓口



新型コロナウイルス感染症対応に係る応援メッセージのご紹介

新型コロナウイルス感染症対策につきまして、皆さまのご理解、ご協力ありがとうございます。世界中が新型コロナウイルス感染症対応に追われる中、多くの応援メッセージやご寄付をいただいております。職員の活力となっております。いただいたものの一部とはなりますが、心温まるメッセージをご紹介します。



本当にありがとうございます。感謝しております。これからもがんばってください。



医療従事者のみなさんのおかげでコロナ感染を抑えられています。感謝しかありません。



突然のお手紙で失礼します。新型コロナウイルスで感染拡大を防ぐため病院スタッフの皆様が毎日戦っていらっしゃる事を新聞・テレビで拝見するたびに心痛む毎日です。お礼のお手紙を書こうとペンを取りました。私は東温市に住んでいますが県立中央病院は誰かかれかがお世話になっている病院です。私達が想像する以上の精神力と労力を必要とするお仕事本当に毎日感謝しております。

又皆様を支えていらっしゃる御家族の方々にも感謝です。私達が今できる事は、家庭に居る、必要以外の外出をしないという事でしょう。私にかぎらず、多くの人が皆様に感謝していると思います。一日も早い終息を祈っています。くれぐれもお身体に気をつけられてお仕事頑張ってください!! 陰ながら応援しております。



コロナの対応をしてくださったみなさまへ
私はひいおばあちゃんを助けていただいたので、そのときのお礼とコロナの対応のことについて、感謝をこめて手紙を書かせていただきました。

このたびは、愛媛県の人々を救っていただきありがとうございます。まだ、全部おさまったわけではないので、医療従事者のみなさまと県民のみなさまで協力して、コロナウイルスと戦い、乗り越えていきたいと思っています。また、家族やクラスのみんなに、手洗いうがいやマスクの着用などを呼びかけたいと思います。おばあちゃんのこと、本当に感謝でしかありません。何年か昔のことですが、そのときは、忘れていません。ありがとうございます。これからも、がんばってください。私もがんばります!



皆さまからの温かいお気持ちに、本誌をもって厚くお礼申し上げます。

同じ医療従事者として、日々皆さんが大変な思いをしながら勤務されていると思うと私自身も励まされます。ありがとうございます。



▲姫山小学校より千羽鶴とメッセージ色紙をいただきました



▲集合写真：以下の3グループに分かれて、専門性を持たせた臓器別診療体制をとっています



▲上部消化管グループ（食道、胃、十二指腸）



▲下部消化管グループ（小腸、大腸、肛門）



▲肝胆脾（かんたんすい）グループ
（肝臓、胆道、脾臓、膵臓）

当院は、地域がん診療連携拠点病院と高度救命救急センターの役割を持っており、消化器外科はその一翼を担っています。2019年の総手術件数は1,577例で、そのうち28.2%は緊急症例です。また、各種併存疾患を持つハイリスク患者さんや、高難度手術症例を積極的に受け入れているのも特徴です。同時に、低侵襲、整容性をも考慮した鏡視下手術を積極的に導入し、ロボット支援手術にも取り組んでいます（48号にて紹介）。

最新（2018年度）のDPCデータにおいて、大学病院などを含んだ全国の医療機関では、患者数の多さでは、腹腔鏡下胆嚢摘出術等【胆嚢水腫、胆嚢炎等】が4位、肝部分切除等【肝・肝内胆管の悪性腫瘍】とヘルニア手術・鼠径ヘルニア等【鼠径ヘルニア】が9位、胆嚢悪性腫瘍手術・胆嚢に局限するもの（リンパ節郭清を含む）等【胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍】が10位でした。在院日数の短さでは、胆嚢悪性腫瘍手術・胆嚢に局限するもの（リンパ節郭清を含む）等【胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍】が1位、肝切除術・2区域切除以上であって、血行再建を伴うもの等【肝・肝内胆管の悪性腫瘍】が2位、膵頭部腫瘍切除術等【胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍】が7位、膵頭部腫瘍切除術・血行再建を伴う腫瘍切除術の場合等【膵臓、脾臓の腫瘍】が10位となっています。今後とも安心して治療を任せいただけるよう、更なるレベルアップに努めていきます。

出典：平成30年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」

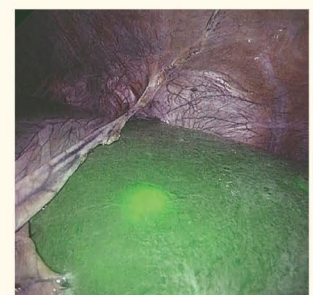
調査の実施主体：厚生労働省

調査の範囲：大学病院本院群（82）、DPC特定病院群（155）、DPC標準病院群（1,493）、DPC準備病院（260）、出来高算定病院（2,774）

ICG※1 蛍光法最新機器を導入し活用しています

ICG蛍光法とは、肝機能検査に用いられているICGが近赤外光にて蛍光発光することを利用した術中診断法です。肝臓外科では腫瘍の同定（判定）に有用で、実際、術中新たに腫瘍が発見され遺残なく切除できた症例があります。消化管では吻合部※2の血流評価が可能で、当院では縫合不全の予防に役立っています。

※1 ICG（Indocyanine Green：蛍光物質の1つ） ※2 つないだ部分のこと



当院の
ドクターを
紹介します

ドクターズカルテ

漢方内科・総合診療科

かくとう ひろし
角藤 裕先生

Doctor



▲漢方内科診察室にて



漢方内科・総合診療科の角藤と申します。西予市野村町出身で、2004年に自治医科大学を卒業して当院で卒後臨床研修の後、へき地医療に従事し2014年に当院に戻ってきました。へき地医療での経験を活かし、総合診療医として患者さんの症状に幅広く対応し、必要に応じて漢方薬を併用したり、はり・お灸をお勧めしたりしています。逆に、患者さんの病状によっては、漢方内科を受診されたにもかかわらず、漢方ではなく普通の薬しか出さないこともあり、東西を問わず患者さんに適した治療を心がけています。

家では5年前に柴犬を譲り受けて以来、毎日連れて(連れられて?)歩いておりますが、柴犬のしつけは難しく日々苦心しております。

今後ともよろしくお願いいたします。



▲柴犬の「くり」(5歳メス)

当院の
研修医を
紹介します

Resident

1年次研修医
たまるや りんたろう
田丸屋 麟太郎先生

仕事以外の過ごし方を教えてください。

新型コロナの影響でなかなか参加できていませんが、学生時代から続けている剣道の稽古に通っています。業務後の良いリフレッシュになるので、今後も時間を見つけて月に1、2回程度参加したいと思います。

日常気を付けていることは何ですか？

当院での研修を終えた後、数年間は南予方面の県立病院や診療所に赴任する予定です。将来、そこでどのような患者さんが来られても対応できるよう、初期研修のうちに幅広い知識と経験を身につけられるよう努力しています。

今後の目標は何ですか？

まずは自分自身の健康に気を付け、初期研修を修了することが目標です。また、医師になるまでに支えていただいた家族や友人、いろいろな方々に医療という形で恩返しができるよう精進していきます。



▲小児科をローテートした際に症例発表をしている1枚



▲業務のリフレッシュに、剣道の稽古に参加した際の1枚



病院の中には、いろいろな職種の方がたくさん働いています。その中で医師の事務作業を手伝って、医師が患者さんの診療に専念できるように医師業務（もしくは事務作業）の補助をする方たちが「医療秘書」です。事務作業には、カルテ記載や紹介状、各種診断書や意見書の作成、会議資料作成のための準備、電話対応など様々なことがあります。医療現場に欠かせない大切な役割を担っています。

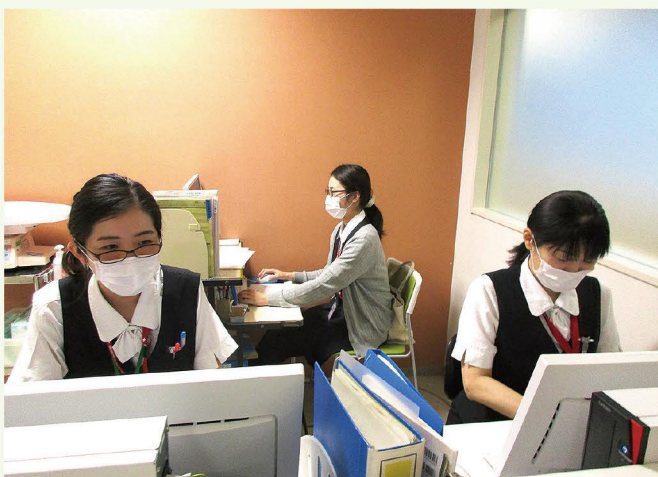


▲総合診療科外来で医師の事務補助をしている医療秘書

そして、その医療秘書の配置や教育・研修、働く環境の管理等を行うため、2018年度に設置したのが医療秘書管理室です。当院には現在46名の医療秘書が在籍しています。

医療秘書管理室は、(1) 医療秘書の配置、(2) 医療秘書の雇用、(3) 医療秘書に対する教育・研修、(4) 医療秘書の指導・監督、(5) 医療秘書のメンタルヘルスに関する業務を行っています。二宮室長(消化器病センター長)以下8名のスタッフで運営しています。

優秀な医療秘書の確保と人材の流出防止のため、医療秘書管理室では、従来からの初期研修に加えて、教育・研修の充実や診療科別の業務マニュアルの整備、ワークライフバランスの実現を考えた勤務体制の構築や、処遇の改善等に積極的に取り組み、医療秘書のやりがい度の向上を図っています。



▲病棟ナースステーション内で書類作成中



▲当院初の男性医療秘書も外来で活躍中



当院では、医療秘書の人数はまだ足りているとは言えず、経験者、未経験者を問わず随時募集しています。県立中央病院で一緒に働いてみませんか？

認知症ケアチームを設立しました！



▲病棟回診前に患者さんの状態を多職種で確認している様子

この度、当院では認知症ケアチームを設置しました。身体疾患に伴う苦痛や入院治療における環境の変化、それに伴う不眠などが引き金となって、入院中にせん妄（一時的な意識障害）が誘発され、身体疾患の治療や認知機能に悪影響を及ぼすことがあります。これらの状態にある患者さんに、それぞれに応じた治療を行うことで、患者さんの尊厳を守り、安心してスムーズに治療を受けていただくよう日々活動しております。このことは、退院後の自立した生活を保つことにも繋がります。

認知症ケアチームでは、多職種（医師、看護師、社会福祉士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師）が連携して定期的なカンファレンスや、必要な患者さんへの病棟回診を行っております。これからの患者さんの状況に応じた適切な治療、入院環境の整備を行っていきます。

精神科 さいお ともこ 佐尾 知子



転入・転出医師（2020.9.1～2020.11.30）

転入

所属	氏名	専門
救急科	竹内 龍之介	専攻医
麻酔科	武内 三希子	麻酔一般
産婦人科	井上 唯	専攻医
産婦人科	行元 志門	専攻医
血液内科	後藤 有基	血液全般、栄養管理
脳神経内科	京樂 格	脳卒中、神経難病、総合診療
心臓血管外科	吉岡 一朗	心臓血管外科
心臓血管外科	薦田 宗則	専攻医
内科専門研修プログラム	風谷 卓郎	専攻医

転出

所属	氏名	備考
救急科	二宮 鴻介	
麻酔科	谷島 明秋	
産婦人科	中野 志保	
新生児内科	長友 太郎	
小児科	桑原 こずえ	診療委託 毎週火曜午後に変更
形成外科・顎顔面外科	土居 未歩	研修受入 毎週金曜に変更
内科専門研修プログラム	岡部 光	

県中豆知識

当院における換気につきまして、診療棟、管理棟の全ての各フロア・各部屋に換気装置が備え付けられ、窓や扉を閉めた状態で十分な換気がされる構造となっておりますので、ご安心ください。



皆さんが安全に安心して過ごせるように！ セキュリティエヒメ

警備員の仕事は、皆さんが安全に施設を使えるように警戒し、安心して過ごせるように努めることです。

防災センターには、防犯・防災の為の様々な機械が備えられており、24時間365日、常に必要な人数を配置しています（総勢11名の警備員が交代で勤務）。

日頃より、防犯・防災に備えた敷地内の巡回や窓口での出入管理、監視カメラの映像を確認するほか、拾得物の一時保管や時間外の電話交換、病院内のご利用案内など、多岐にわたって病院を利用する皆さんと関わらせていただいています。

また、自主的な防災訓練も繰り返し実施しています。いざという時は我々が適宜対応しますので、ご安心ください。

現在、新型コロナウイルスの感染対策を取りながら、皆さんが病院内で快適に過ごせるように頑張っています。こちらから皆さんにご協力をお願いすることがあるかもしれませんが、ご理解の上、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



みんなを
「守る」
きゅん♡



深呼吸していますか？ 足腰を鍛えていますか？

いまだ新型コロナウイルスの収束が見通せない

中ではありますが、外出には最適な過ごしやすい季節となりました。紅葉から冬へ様変わりしていく自然の景色に癒やされるのも素敵なことです。全国的な自粛ムードから、東京も含めたGo To Travelが推奨され、人の動きが多くなりました。ご自身でできる感染対策をしっかりとしたうえで、行動範囲を広げていくのもいいですね。けれど、そのためには自律神経のバランスを整えて、足腰を鍛えておかないと病気やケガのもととなります。そこで2つ提案です。

日頃の呼吸は、無意識の呼吸で浅く短い呼吸になっていることが多いです。正しい深呼吸は自律神経のバランスを整え、免疫力の低下を防ぐことにもつながるといわれています。1日3回、5～10セット程度の深呼吸を取り入れて

みてはいかがでしょうか。

もう1つ、行動範囲が狭くなっていた分、足腰の弱りとともに筋力も低下しています。ストレスにならない程度に、ご自身に適した速度で歩くこともおすすめです。肩の力を抜いて、おへそに力を入れるよう意識して姿勢を整え、かかとから着いて歩く。歩くことがままならない方は、お家で足踏みもいいですよ。その場合は通常歩く時よりも、膝を少し上げることを意識しましょう。この2つがおすすめです。

ご自身が体を整えておくことは、感染対策や転倒予防につながり、安全を守ることができます。日頃から意識的に体に関心をもって過ごしてみてもいいかもしれません。



医療安全
管理部だより
No.44

連携医療機関紹介 ～第20回～

医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック

- 所在地 松山市別府町 444-1
- TEL 089-911-6333 ■FAX 089-911-6334
- 診療科目 内科・訪問診療
- 病床数 16床
- 外来診療時間 休診日 火曜・木曜・土曜・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:30～12:00	○	×	○	×	○	×	×

【病院の概要】 2000年に四国初の在宅医療専門クリニックとして開業。現在は8名の常勤医師等によって松山市全域（一部地域除く）への訪問診療を実施しています。患者様の病院から在宅への移行や在宅での療養をより安心なものとするため、2016年には有床診療所化し、また重度患者様や看取りのケースにも積極的に関わっています。

【病院の特徴】 開業当初より24時間365日対応を実施しています。また、歯科診療や訪問看護・リハビリ、在宅介護サービス、鍼灸マッサージあるいは栄養指導等、多職種が多方向から関わることで、在宅療養をされる患者様がさらに安心してご自宅での生活を継続できるよう支援します。また「最期まで口から食べる」ことを目指す食支援などにも積極的に取り組んでいます。



いちかわ内視鏡内科クリニック

- 所在地 松山市枝松 5-6-10
- TEL 089-915-7677
- 診療科目 内視鏡内科、消化器内科、内科
- 病床数 0床
- 外来診療時間 休診日 水曜午後・土曜午後・日曜・祝祭日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00～18:30	○	○	×	○	○	×	×

【病院の概要・特徴】 2013年6月に開院した無床クリニックです。小坂交差点近くに位置しています。

胃、大腸の内視鏡検査及び内視鏡治療を中心に診療を行っています。大腸内視鏡では前処置が必要なため、トイレ付きの専用個室にて下剤を服用していただいています。年間約6,000件の検査を行っており、早期胃がん、早期大腸がんなどに対してESD加療が可能なものは、希望があれば当院にて行っています。進行がん、内視鏡治療適応外病変などは県立中央病院の消化器外科と連携し、手術を依頼しています。術後経過観察の内視鏡検査の希望があれば、当院にて行っております。

できるだけ痛みを和らげ快適に内視鏡検査が行えるよう、スタッフ一同心がけています。



当院は、2010年10月29日に「地域医療支援病院」の承認を受けています。

このコーナーでは、紹介・逆紹介によって連携している医療機関を随時ご紹介させていただきます。（紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。）

